

14.病床・診療科目転換のイメージ

将来にわたり持続可能な病院

市立美唄病院建替え基本構想・基本計画では、将来の病床数及び機能は、今後の人口減少、高齢化や在宅医療の状況を踏まえ、建替え後 5 年ごとを目途に見直すこととし、開院当初の一般病棟 43 床、療養病棟 32 床の計 75 床から、15 年後には回復期を中心とした 60 床への機能・規模変更を行うこととしています。

基本設計では、基本構想・基本計画に示された将来の機能・規模変更に則り、下記のような病床減床のイメージの一例を作成しました。

医療環境は常に変化しており、時代のニーズに合わせて変化できるようなフレキシブル性が重要です。このことから軽量鉄骨造による事務棟を計画しました。また、将来の超高齢社会を見据え、当院が地域で役割を果たすため、今後拡充が必要となる総合診療や在宅医療で活躍していただく医師の教育研修機能等に転用し効果的な活用を図ります。

